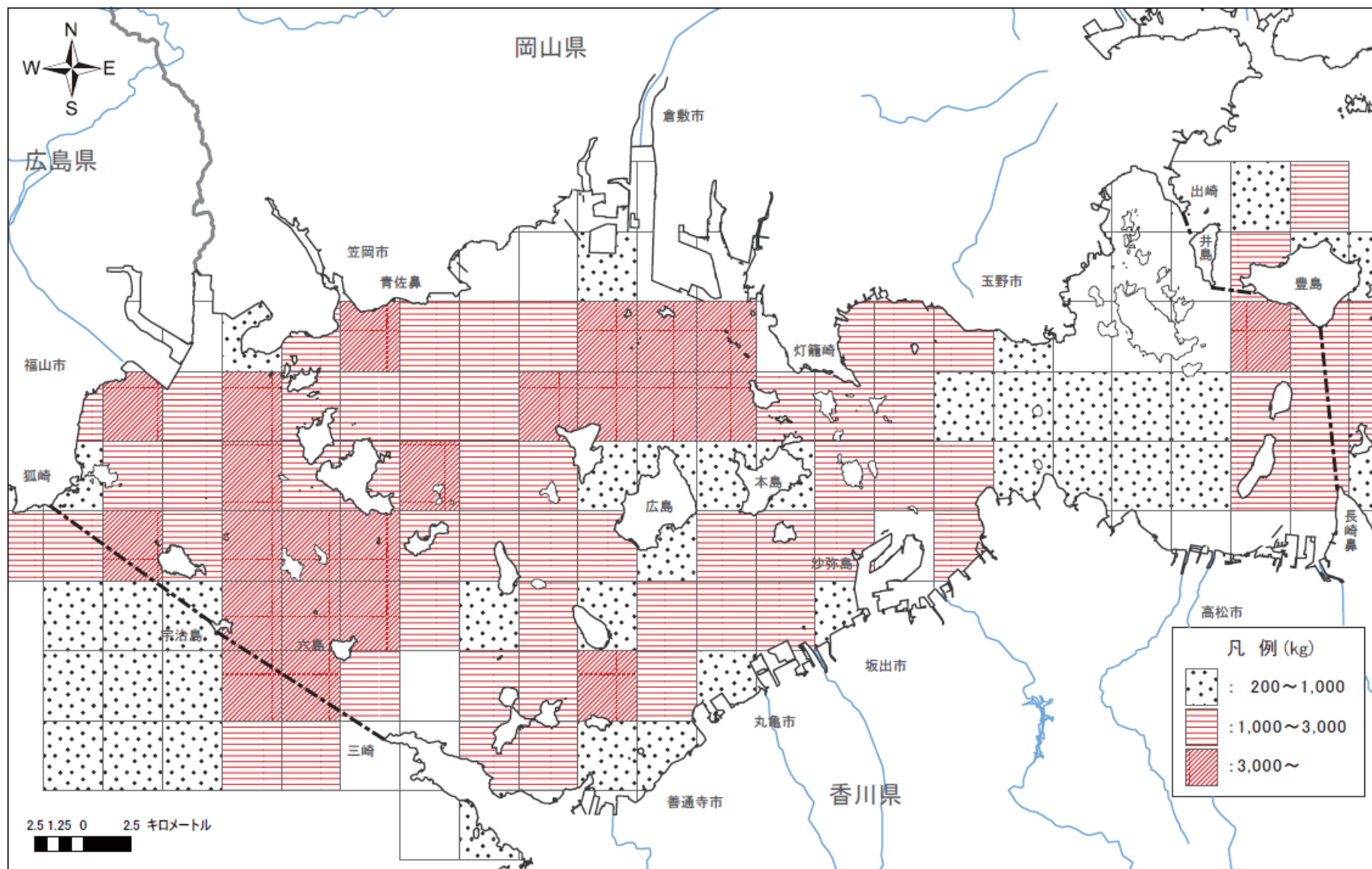


出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

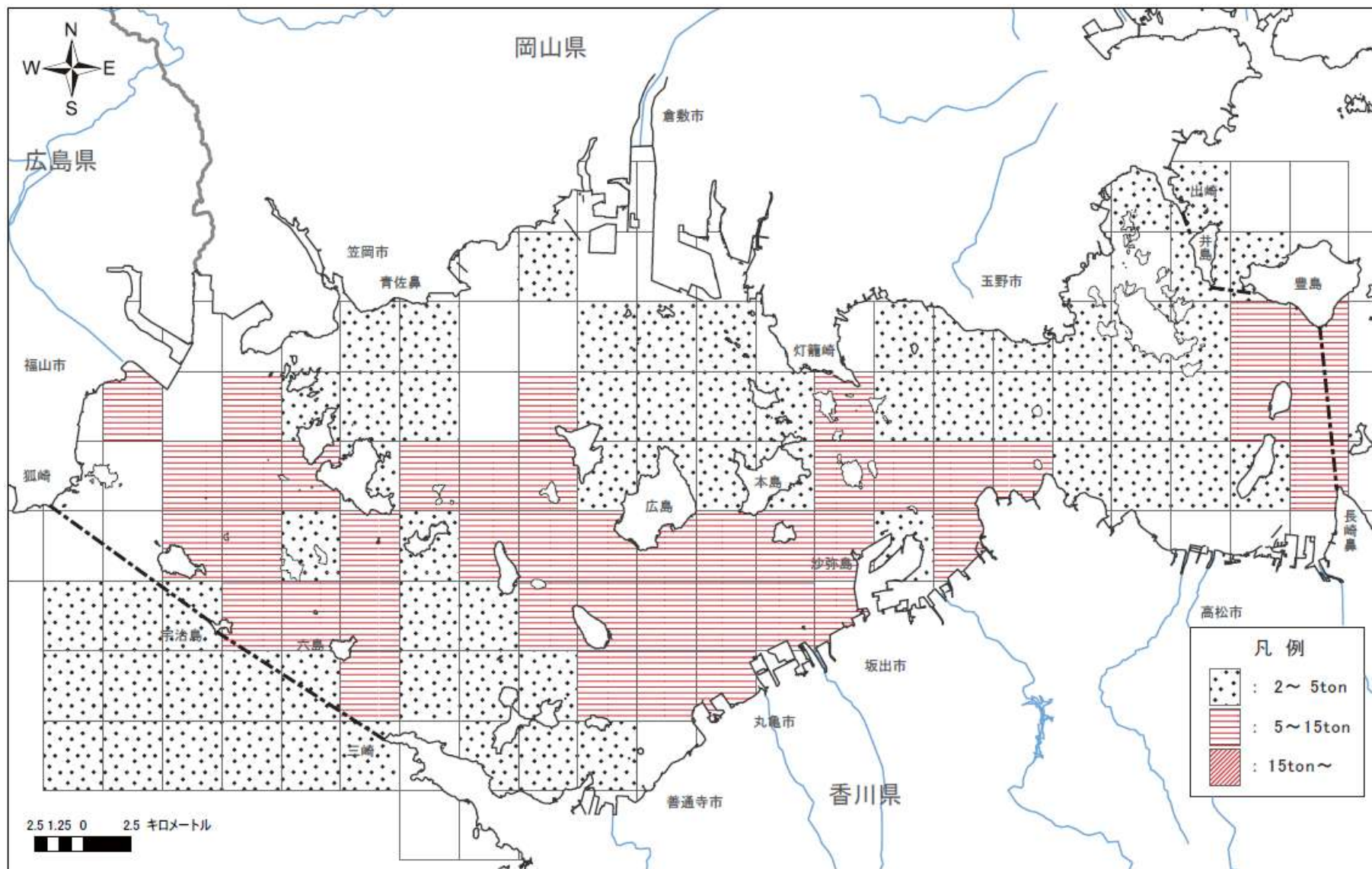
図 11 (4) 主要魚種の漁場分布図（マダイ）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

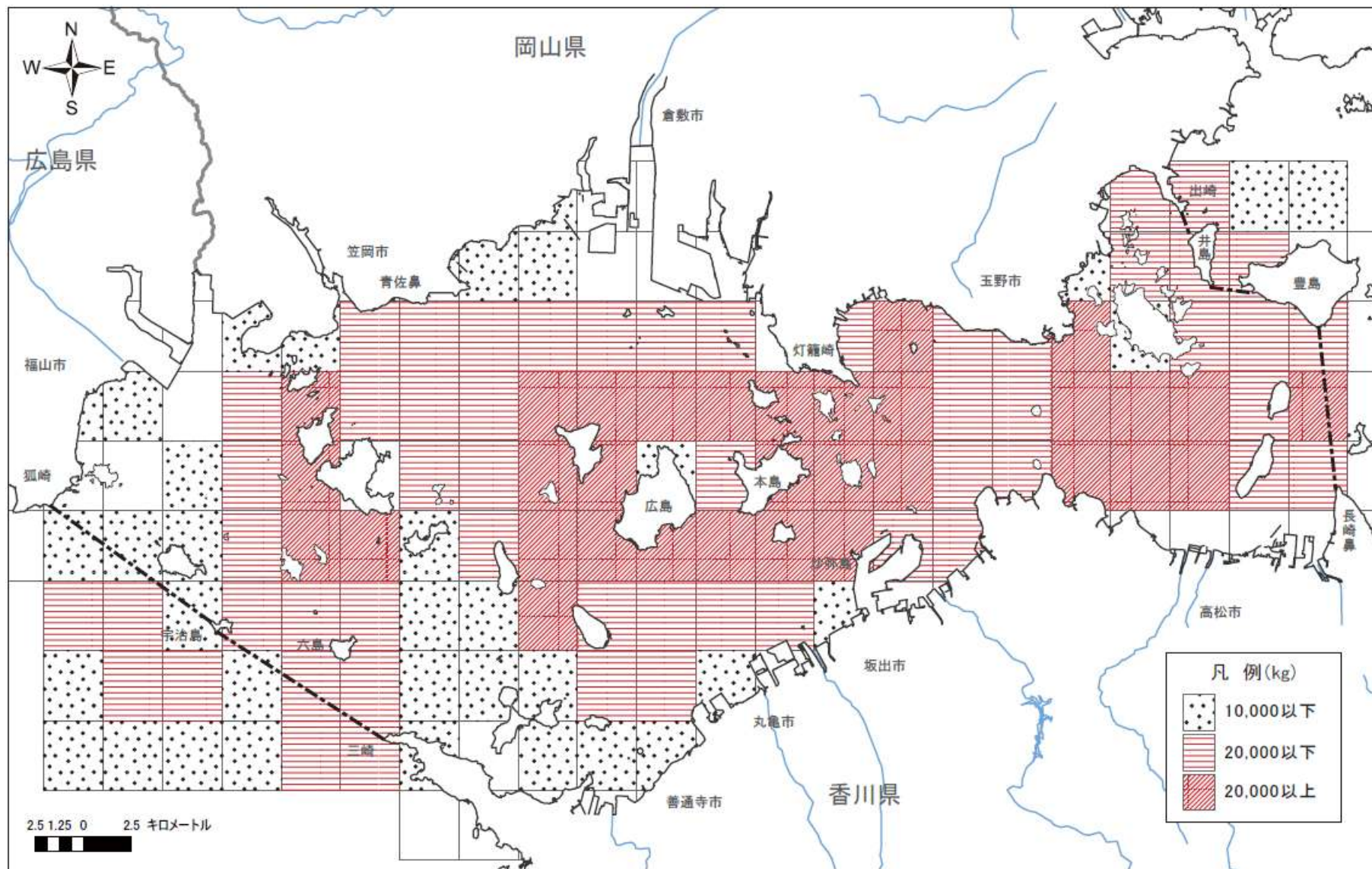
図 11 (5) 主要魚種の漁場分布図（ガザミ）





出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

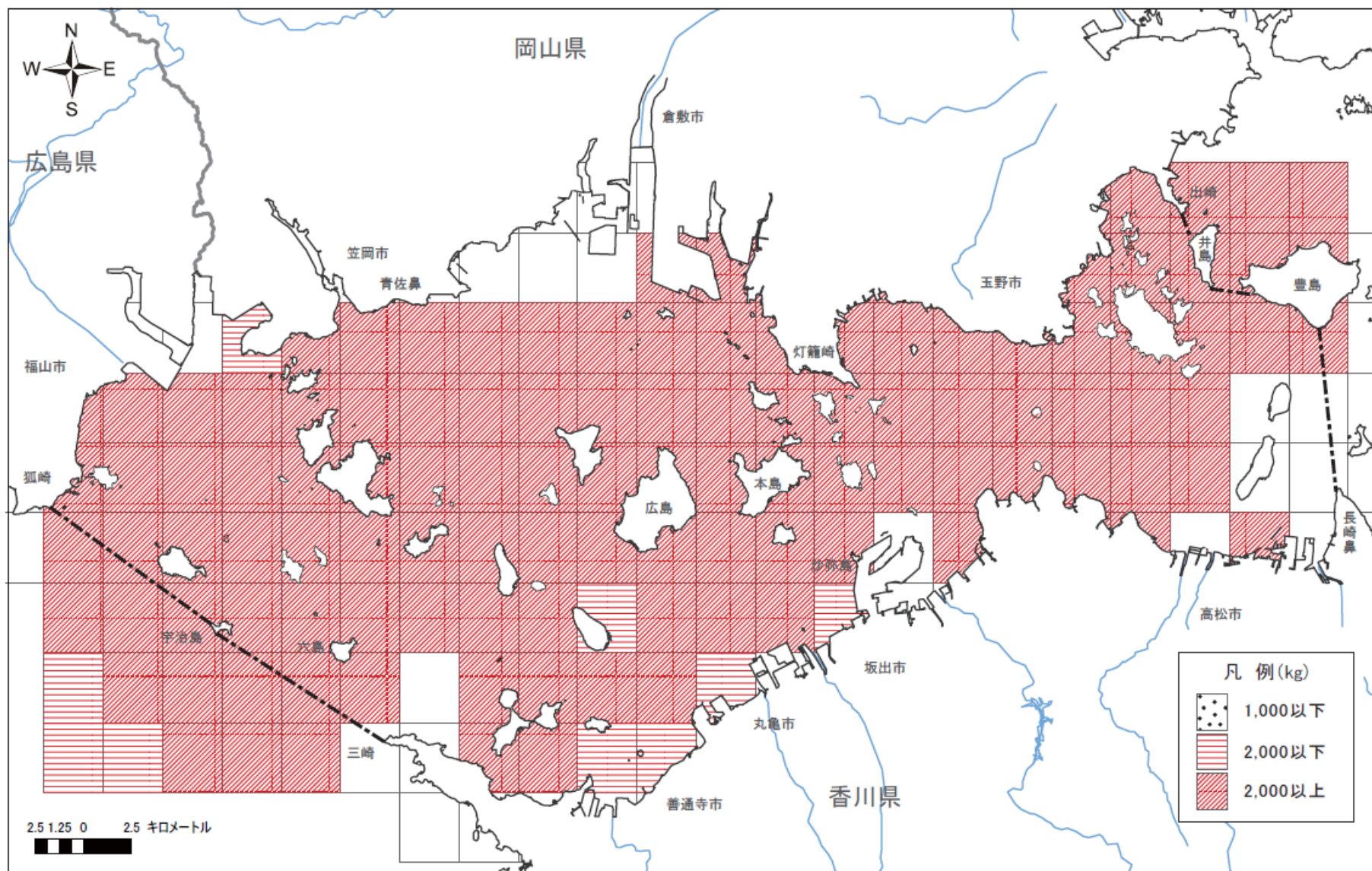
図 11 (6) 主要魚種の漁場分布図（クルマエビ）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 11 (7) 主要魚介類（スズキ・カレイ類・ヒラメ・マダイ）の漁場分布図

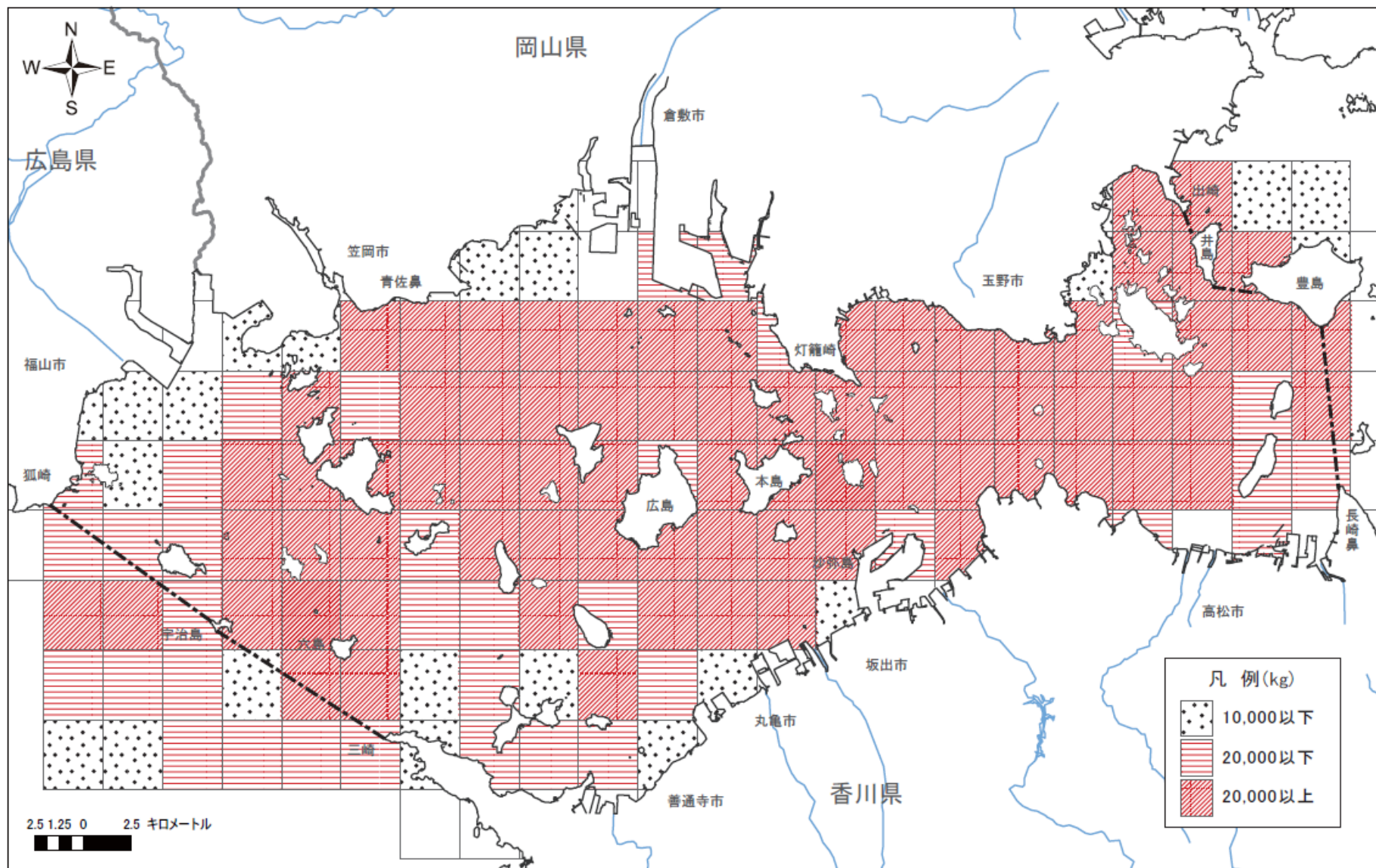




出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 11 (8) 主要魚介類（ガザミ・クルマエビ）の漁場分布図





出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 11 (9) 主要魚介類（スズキ・カレイ類・ヒラメ・マダイ・ガザミ・クルマエビ）の漁場分布

表 7 主要魚種の産卵場及び生育場について

主要魚種名	現地調査結果等のまとめ
スズキ	スズキ卵を含む可能性のある卵は南西部及び南東部の島嶼部藻場において、稚仔魚は北西部の干潟、南東部の干潟・アマモ場において確認された。備讃瀬戸にはスズキの産卵に適した場所はないことから産卵場としての利用の可能性は低いと推定した。 生育場については、現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料（親魚の分布域を示す漁場環境評価メッシュ図）から、北西部の浅場、北東部の浅場、南東部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
イシガレイ	イシガレイ卵を含む可能性のある卵は南西部の島嶼部藻場において、稚仔魚は南西部の干潟・アマモ場において確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場としては南西部の浅場、南東部の浅場を、生育場としては北東部の浅場、南西部の浅場、南東部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
マコガレイ	卵および稚仔魚は確認されなかった。一方、ヒアリング調査結果及び既存資料から、産卵場としては南西部の浅場、南東部の浅場を、生育場としては北東部の浅場、南西部の浅場、南東部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
ヒラメ	ヒラメ卵を含む可能性のある卵は南西部の島嶼部藻場、北西部の干潟、北東部のアマモ場及び南東部の干潟・アマモ場において、稚仔魚は北西部の干潟において確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場としては南西部の浅場、南東部の浅場を、生育場としては北東部の浅場、南西部の浅場、南東部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
マダイ	マダイ卵を含む可能性のある卵は北東部のアマモ場において、稚仔魚は南西部の島嶼部藻場において確認された。備讃瀬戸にはマダイの産卵に適した場所はないことから産卵場としての利用の可能性は低いと推定した。生育場については、現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、北西部の浅場、北東部の浅場、南東部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
ガザミ	卵は未確認であり、稚ガニは北西部の干潟において確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から産卵場としては南西部の浅場、南東部の浅場を、生育場としては北東部の浅場、南西部の浅場、南東部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
クルマエビ	卵は未確認であり、稚エビは北西部の干潟において確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から産卵場としては南西部の浅場、南東部の浅場を、生育場としては北東部の浅場、南西部の浅場、南東部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。

既存資料：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月、水産庁）